

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	令和2年度第3回武蔵村山市自立支援協議会
開 催 日 時	令和2年11月25日（水）午後1時30分 ～ 午後3時20分
開 催 場 所	市民総合センター3階 集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：高橋 毅、椎木 俊秀、大沼 眞弓、陰山 行弘、柳 清美、須永 美智子、岩瀬 香世、千田 祐子、押田 友紀子、佐藤 達也、奥下 洋平、茂木 正義、泉澤 あい子、富田 眞貴子、来栖 眞理子、元木 尚子（計16名） 欠席者：小林 冬子、鈴木 正悦、平田 将太郎、佐々木 久子、溝口 睦子（計5名） 事務局：阿部課長、奥泉係長、栗原係長、比留間主事、村山主事、株式会社IRS 緒方職員
議 題	1 報告事項 （1）令和2年度第2回武蔵村山市自立支援協議会の会議録内容結果について （2）専門部会の再編成について （3）各専門部会からの報告について  2 議題 （1）第五次障害者計画等の策定について （2）その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題（1）については、自立支援協議会での意見、後日行うパブリックコメントや説明会での意見を踏まえて策定することとする。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）  ●会長 ○委員 ■事務局	1 報告事項 （1）令和2年度第2回武蔵村山市自立支援協議会の会議録内容結果について  ●事務局より説明をお願いします。  ■（事前配布資料及び当日配布資料の確認）  ■事前に会議録を配布させていただいている。修正等の意見がある場合は、12月15日までに意見をいただきたい。  （2）専門部会の再編成について  ●事務局より説明をお願いします。  ■（資料に基づき、就労支援部会、地域相談支援部会及びくらし安全部会の構成員及び部会長を報告。子ども支援部会については審議経過を報告）  ●何か意見、質問はあるか。 ないようなので、次に移る。  （3）各専門部会からの報告について

(地域相談支援部会から報告)

○9月から活動を始めており、事例検討や各事業所からの近況報告等を行っている。また、障害福祉課から地域生活支援拠点の説明も受けている。9月の第1回で部会長や活動内容等を決定し、10月及び11月は事例検討等を行っている。

●地域生活支援拠点の説明を受けているとあるが、引き受けるかの検討は各相談支援事業所でしなくてはならないのか。

■地域相談支援部会内で、下話として各相談支援事業所に引き受けられるか検討を依頼したが、正式に文書では依頼をしていない。昨年度の武蔵村山市地域生活支援拠点等検討会において、地域生活支援拠点の加算についての詳細が不明であるため引き受ける事業所がいなかった。相談の施設については、今年度に依頼をする事業所が具体的にあり、体験の施設や緊急時の受け入れ施設についても、引き受け手がなければ引き受けるとの話もあるため、相談の施設を足掛かりに来年度以降、徐々に拡充を図りたいと考えている。

●地域生活支援拠点の検討は重い判断であるため、一職員に投げかける話ではなく、法人に対して投げかける話ではないのか。

■あくまで下話として、意向を確認するために行った。下話の段階で引き受ける事業所があれば、正式に依頼をさせていただこうと考えていた。配慮が足らなかったが御理解いただきたい。

(くらし安全部会から報告)

○11月4日に第1回を開催した。障害者のくらしを考える部会に居住系サービス事業者部会など複数の団体が合流し、くらし安全部会として、2月に1回第3水曜日に開催することとした。コロナ禍のため部会をリモート開催にしてはどうかと意見が出たが、パソコン等を用意できない団体もあるため見合わせる事となった。障害者のくらしを考える部会の活動で作製されたヘルプバンドナ500枚に対して、配布済みが221枚、防災の備蓄が100枚あり、残りの179枚についてどのように配布するか、手帳所持者以外の方の配布についてどうするか検討すべき課題がある。1月と3月に開催を予定しており、合流した団体とも調整しながら、活動内容を詰めていきたいと考えている。

●まだ第1回のため活動内容をこれから決めていくと思うが、部会再編を機会に事業計画を作成して活動していただきたい。各部会においても単に情報交換だけではなく、事業計画を作成していただきたい。

(就労支援部会から報告)

○10月28日に第1回を開催した。就労支援部会は、はたらくを考える部会、日中系サービス事業者部会の就労継続支援B型作業所及びサンシャインホームが合流した部会であるため、はたらくを考える部会の部会長が就労支援部会の部会長を務めることとなった。活動内容としては、外部講

師を呼んでの職員研修、工賃の向上や優先調達法の事業所向け勉強会、障害者の方の企業・工場見学及び企画、サンシャインホームの短期実習の4点を来年度の活動内容とした。今年度の活動内容は、就労継続支援B型作業所の職員向けに、はたらくをテーマにした勉強会をすることとした。ハローワーク、サンシャインホームの短期実習、障害者就労支援センターとらいについて説明をする。勉強会の詳細については、来月の第2回就労支援部会で決めて、来年1月に小規模で勉強会を行う予定である。

●何か意見、質問はあるか。

■事務局より報告したいことが2点ある。1点目は市民総合センター内の新型コロナウイルス陽性者の件である。10月に社会福祉協議会の職員で1名出たが、市民総合センター内での濃厚接触者はいなかった。また、11月20日に1名出ており、濃厚接触者は3名のうち市民総合センターの職員が2名いた。その2名については昨日PCR検査を行い、本日の午後にPCR検査の結果が出る予定である。保健所の指導により消毒を行い、通常業務ができるようにしている。2点目が12月3日から始まる障害者週間に合わせて、市民総合センターの1階ロビーで、身体障害者福祉センターと精神障害者地域活動支援センターお伊勢の森の利用者の方の作品をパネル展示する。本来であれば、皆様の意見を伺うところではあるが、このような情勢のため緊急で開催することとなった。来年度は皆様に広く声をかけて開催したいと考えているので協力をお願いしたい。

## 2 議題

### (1) 第五次障害者計画等の策定について

●事務局より説明をお願いする。

■（事前配布資料及び当日配布資料の確認）

■（資料に基づき説明）

●内容について何か意見、質問はあるか。

○児童発達支援センターが市内に1ヶ所とあるが、どの施設が児童発達支援センターになるのか。

■東京小児療育病院である。

●他に意見、質問はあるか。

●障害福祉サービスの見込量の表に、居宅介護が減少して、同行援護と行動援護が増加しているが、なぜこのような数値になるのか。詳しい説明をお願いしたい。

■居宅介護が減少して、同行援護と行動援護が増加するという見込量については、平成30年度以前も含めての実績を基にした見込量である。居宅介護については、見込量を予測する計算式があり、その式に当てはめて数値を出している。この数値については他のサービスも含めて再度見直しをする。令和3年度以降減少していくのか、増加していくのかについては再

度数値の精査をする。数値の詳細な説明については難しい。

●他に意見、質問はあるか。

○年々協会の会員が高齢化して減少している。現在は35名が登録されている。身体障害者手帳所持者が2,373名とあるが、市は誰が所持しているか把握をしているのか。市から身体障害者手帳所持者に協会に加入するよう案内はできないか。

■窓口で障害者福祉の手引を配布している。手引の中で市の施策等を案内している。それ以上の斡旋に当たる案内はできない。

●他に意見、質問はあるか。

○福祉避難所の活用について、志々田浩太郎市長時代に取り交わしたままであり、高齢福祉課や防災安全課にも話しているが、現状に則した形で内容の見直しができないか。災害時にケースバイケースで対応するという内容になっている。どういう人を何名受け入れるのか、どのような物資を整備しておく必要があるのか定まっていない。東京都からも福祉避難所の開設訓練や備品の整備をするように連絡が来ている。具体的に地域でどういった備品が必要なのか、高齢者と障害者では揃える物資が変わると思われる。防災安全課が中心ではあると思うが、細かい内容の話し合いがしたい。障害福祉課より防災安全課に働きかけて欲しい。

○聴覚障害者についても226名と増加しているが、協会に加入する人がいないのは、陰山委員と同様に疑問に思う。また、資料内に「手話通訳者（要約筆記者）の派遣」との表記があるが、手話通訳者の中に要約筆記者が含まれているということか。手話通訳者と要約筆記者は別だと思うが、どういう意図か確認したい。

■手話通訳者と要約筆記者は別であると考えため、括弧を取り、「手話通訳者・要約筆記者の派遣」との表記に修正する。協会の加入については市からの案内は難しい。

■障害者のコミュニティが縮小していくのは、市としてもよい状況ではないと考えている。リーフレット等があれば提供していただきたい。窓口を設置することで協力はできる。

○パンフレット等もよいが、ホームページに掲載することが効果的と考える。市のホームページにリンクを貼ってもらえるとありがたい。

■URLの提供をいただければ、取りまとめて掲載することに協力する。

●他に意見、質問はあるか。

○インクルーシブ教育の推進についてお願いしたいことがある。特別支援学級の児童に対して、何かあれば特別支援学校に行けばいいと発言する教職員がいると聞いている。特別支援学級での支援については、障害児のための計画であるが、それと同時にもう一步踏み込んで、計画を推進していく側も教職員への研修等できないだろうか。インクルーシブ教育というの

は、どんな人もまずやってみることを支援することだと思う。学校側にも支援のスキルアップとともに対象児童に対してどう支援すべきかを考えていただきたい。障害者や障害児への今後の取り組みではあるが、市として教職員や介助員のレベルアップも含めて、どんな児童でも受け入れる姿勢を見せる必要があるのではないかと。

■市長部局と教育委員会で組織が違うため、我々の一存では決定できない。意見を承り教育委員会に伝えて対応をお願いする。

●他に意見、質問はあるか。

○先程の市のホームページにURLを掲載する案は良いと思うが、高齢者はパソコンを持っていない方も多いため、ホームページに加えて対面で資料を渡せたら良いと思う。

■窓口は広い方が良く考えている。

●他に意見、質問はあるか。

○相談事業の充実について、窓口来客での相談以外に電話やメール、アウトリーチなどに積極的に取り組むとあるが、今後は市としても取り組んでいく方針なのか。

■現在、市ではメールの相談も件数は多くはないが受けている。市のホームページに送ると届くようになっているので、計画に記載している。

●障害者自立支援審査支払等システムとはどういったものか。説明願いたい。また、短期入所等の見込量の数値も、実績に比べて減少しているのが散見されるので、全体的に見直しをお願いしたい。

■見込量の数値については改めて精査する。障害者自立支援審査支払等システムは、障害福祉サービスを利用した際に、事業所が国保連に請求を上げているシステムのことである。各事業所で上げた請求の情報を市で確認しているが、利用者数や金額等の実績からサービスの利用の状況が見えてくるため、今後のサービスの分析に利用していこうと考えている。

●国保連のデータが障害福祉サービスの質の向上に繋がっていくということか。

■各障害福祉サービスの数値だけでは実績でしかないが、数値は分析することで需要や方向性を捉えることができるため、市に必要なサービスの話ができると考えている。

○計画に記載されている担当課というのは、相談窓口ということでよいか。計画では詳細な部分が分からない。また、計画作成には多くの時間を要していると思うが、新型コロナウイルスのため情勢は大きく変化している。一度決定すると数年間この計画で運用することを考えると、情勢の変化を数値に取り込まなくてよいのか。

■計画は主要なものを大枠で記載しているため、詳細な部分については記

載していない。悩まれている方で窓口が分からない場合は、障害がある方に関することであれば、まずは障害福祉課に御案内いただければと考えている。また、数値についてだが、国からの目標値が示されている数値は、そのまま目標値を記載している。見込量の数値は、新型コロナウイルスの影響を受けたと思われる障害福祉サービスについては、令和2年度の実績を含まずに数値を出している。あくまでも見込みの数値であるため、数値を超えた場合に障害福祉サービスを支給しないということではないので御理解いただきたい。

●他に意見、質問はあるか。

○障害福祉サービスの充実における現状と課題についてお話ししたい。本校は肢体不自由児の特別支援学校である。価値観と生活環境の多様化、社会背景の変化の中でニーズが劇的に変化している。重度とされる障害者も社会参加をする時代になり、施設や病院で過ごしていた方が在宅に戻って地域の中で生活していくように変化している。その中で学校も求められるものが大変多い状態である。武蔵村山市に関しては、出生から入学前までは障害のある方が安心して医療を受けられる地域である。市内在住の重度障害児は多いが、病院ではなく自宅で地域と繋がって学校に通う方が多いのは、武蔵村山市の豊かな部分と思っている。そういった社会資源がある一方で、学校卒業後については、地域に戻りたいと希望しても、日中活動や居宅介護のサービスにおいて、進路担当としては大変苦慮している。卒業後に市内在住の方が自宅から一番近い生活介護施設に通所することが、本人への負担も少ないのだが、本校の3年間の卒業生を見てみると、週5日通所できている方はいない状態である。週5日通所できる施設を探していくと、近隣市の施設、または市内と近隣市の施設の併用という方法になる。生まれてから成人して高齢になっていく人生の中で、医療的ケアや在宅支援が少しずつ豊かになってきているが、今一番学校として苦慮しているのは、進路先であり、地域と繋がっていく社会資源の拡充が望まれている。全体からしたら数はとても少なく、個別性の高いものではあり、簡単に増やせるものではないと思うが、重度障害者にとっても社会生活をしていくことが、その方が豊かに生きることにつながると考えている。日中活動については各事業所の判断によると思うが、生活介護施設の増加やそれぞれの方のニーズに市が相談を受ける体制があればありがたいと思っている。個々のニーズがかなり多様化している中で、地域で生活していくことが、国のテーマにもなっている。そのための相談や障害福祉サービスの活用の仕方については、柔軟に対応していただければありがたいと思っているのでよろしくお願したい。

●就労支援や就労継続支援の施設は社会資源が充実しているが、重度の生活介護の施設については、武蔵村山市だけでなく他市も同様に圧倒的に不足している。なかなか難しい状況もあると思うが、市だけでなく事業所側も拡充に努めていく必要がある。

●他に意見、質問はあるか。

○令和2年度の手話通訳者の講習会は、新型コロナウイルスのため中止になったが、来年の1月から数回講習会をすることになった。2回という少ない回数だが、実績値が「0」になっているので、「0」のままでよいのか確認したい。

